

トを作成するとともに、学内にインフォメーションボードとして使用できる大型ディスプレイを設置し、授業時間割表を公開できる環境を整備した。

2. 補助事業の成果

・シラバスの公開により、教科の目標・内容・指導計画などの点検が可能となり、前年の反省を次年度以降のシラバスにフィードバックするという発展循環型の点検システムを構築することが実現した。

・授業時間割表の公開により、シラバスの適正な運営の点検が可能となり、本学の教育の質の向上が推進される環境が整備された。

視聴覚教育資料の画像Webデータベース化

福島 祥紘（図書館）

1. 補助事業の取組状況

平成16年度の取組状況は以下のとおりである。

- 1) デジタルデータ作成用機器の整備。
- 2) CD-ROM閲覧用機器の整備。
- 3) 歯科保存学および歯科補綴学の分野の主として教育関連スライドのデジタル化。
- 4) デジタル化を行った画像データをCD-ROMに収容。
- 5) データベース化に備えて、各画像データにタイトル・カテゴリー・キーワード・コンテンツを登録。

2. 補助事業の成果

- 1) 今までは外注でデジタル化を行っていたが、デジタルデータ作成用機器の導入により、ローコストで気軽に作成できる環境が整備された。
- 2) 図書館へのCD-ROM閲覧用機器の導入により、教育資料図書館としての機能が充実するとともに、教育現場と図書館との関係を密着させる足がかりとなった。

歯科技工技術向上のための 手指訓練法の開発

丸山 満（歯科技工士学科）

1. 補助事業の取組状況

歯科技工士の適正の一つに指先の器用さ指頭の鋭敏な感覚があげられる。本研究の目的は、指先の器用さおよび指頭の感覚向上のための訓練法を確立することである。今年度は、本学の学生の現状から指先の感覚、器用さについて基礎データを得るために実験を実施した。

器用さのベースラインの設定：厚生労働省編・一般職業適性検査の中から、歯科技工士の適性として考えられる以下の方法について実施した。

- 1) GATB-Iの手腕作業検査
- 2) 指先器用検査
- 3) 大小分類検査
- 4) 重量弁別検査

2. 補助事業の成果

手腕作業検査および指先器用検査について、得られた基礎データ被験者12名の百分段階点の平均値は、高校3年生の評価基準点と比較すると前者は普通の下、後者は普通よりやや劣る結果となったが、反復により作業能力の向上が見られた。大小分類検査結果は、反復により視覚や触覚能力の向上が認められた。重量弁別検査においては3回の検査の反復訓練では、能力の顕著な向上は見られなかった。以上の検査の結果、器用さのベースラインの特定の可能性が認められた。

今後は、作業環境や体調、訓練時間などが検査結果に及ぼす影響について検討し、検査結果と学業成績、性格および器用さとの関連性を調べることによって、歯科技工に適する器用さおよび感覚の訓練法を確立する。